



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



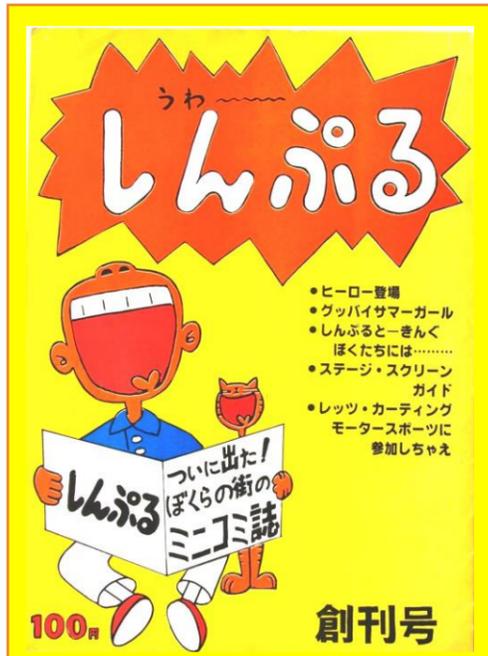
一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋1963
(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)
E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



四季があるのはいいのですが、必ず迎える梅雨の時期は、やはり気が滅入ってしまう人が多いのではないのでしょうか。しかし、世界では干ばつに苦しむ国が多くあります。アフリカ北東部のソマリア、ケニア、エチオピアなどは2年間に及ぶ干ばつで多くの子供たちが飢えて命を落としているそうです。水害で苦しむところがあれば、水不足で苦しむところがある。世の中うまくいかないもので、大きな世界でも小さな世界でも同じですね。

さて、今回は株式会社ゼロの松山会長に投稿いただきました。ゼロは誰もが知る「月刊 Simple」を発行している会社です。



■ 怖いもの知らずの想い上がりと、気持ちだけが前のめりのまま出発

弊社が編集発行するタウン情報誌「月刊 Simple」が、今年秋、創刊44周年を迎えます。小石をひとつずつ積み上げるように「次」を目指して地道に歩み続けた結果、気付けば44年。

長いようであつという間の年月だったような気がします。

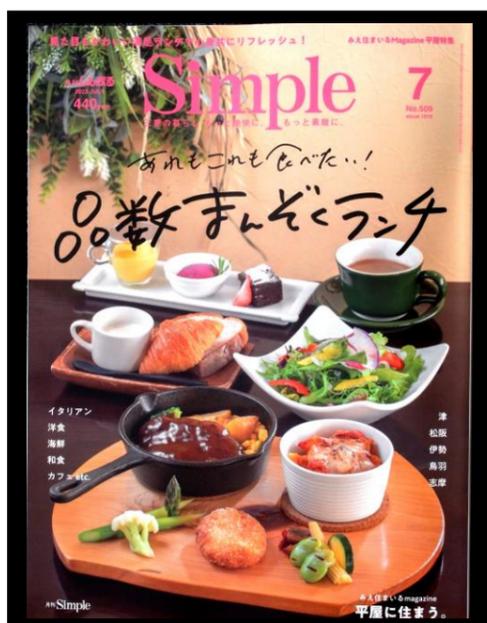
(株)ゼロ 代表取締役会長 松山泰久氏

「三重の暮らし、もっと愉快地に、もっと素敵に」をテーマに、読者のお役に立てる編集企画や取材撮影活動を続ける小誌のはじまりは、「ミニコミ紙」と呼ばれる情報媒体の存在を知り、生意気にも自分にもできるという勝手な思い込みからでした。

「しんぷる」という平仮名のタイトルではじまった Simple ですが、僅かな人生経験しか持たない若造の、怖いもの知らずの想い上がり、気持ちだけが前のめりのままの出発だったのです。

編集出版という仕事に対して、皆目知識のない素人の、それは実に無謀な挑戦だったのかもしれませんが。

創刊号は僅か20頁の、まるで小学生が作る「壁新聞」を綴じたような中身の小冊子でした。今、眼を通すと、懐かしさとともにその幼さ、稚拙さに苦笑いがこみ上げてきますが、同時に出来上がった日の嬉しさ、達成感が甦ってきます。しかし、同時に「つづける」ことの苦難のはじまりでもありました。当時「3号雑誌」、つまり3号出しておしまいと揶揄されていましたが、負けじと思いながらも持続と



いう難しさとの葛藤を繰り返す草創期から、3年5年を経て、やがて10年、20年。

毎号、毎号試行錯誤を繰り返しながらも、実にたくさんの読者の方、取材先や広告主の皆さんそして販売店の方々の暖かいご支援のおかげで、まもなく44歳の誕生日を迎える日が近づいてきました。

その間、全国タウン誌コンクール「タウン誌大賞・奨励賞」も二度受賞という評価をいただきながら、たくさんの方々に手にとりいただける情報誌であるよう、毎月、毎号を通過点とし、スタッフ一同励みつづけてきました。そしてこれからも、地域に特化した暮らしを楽しく、素敵にする情報をお届けし、読者の方々に「やっぱり Simple がええなあ」と言っていただけの誌面づくりに、初心を忘れずスタッフ一同活動に邁進してまいります。

ところで Simple を創刊したのは私ですが、私を育ててくれたのも Simple なのです。

取材、編集活動をするなかで、たくさんの人々との出会から学ばせていただいたこと、また地元三重の歴史や文化、そして名所旧跡や気候風土など、現地に赴き知識を深めることが出来たことなど、積み重ねてきた経験のすべてが私を育ててくれ、いまの私をつくりあげてくれたと思うのです。

もし、あの日、情報誌を作ろうという生意気な挑戦をはじめなければ、いまの私も、Simple も存在しなかったでしょう…。



■ 出会いと学びから得た知識、知恵をもとにプロデューサーとして活動

いろんな体験は、官民間問わず実にいろんな企画・制作のプロデュース業務に携わることに結びついてきました。

なかでも、伊勢神宮内宮御鎮座二千年奉祝事業を展開するプロデュース業務や、第六十二回神宮式年遷宮のお木曳行事、御白石持ち行事をはじめ、凡そ八年に亘る広報活動やイベントの企画・実施に御遷宮対策事務局プロデューサーとして、尽力させていただいた経験は何ものにも代えがたいものだったと思います。



そんな蓄えてきた知恵と経験は「売るから売れる」をコンセプトに広告の企画デザインや店舗開発、ブランディング、マーケティング、販売促進など、事業成果を獲得するためのお手伝いに結びつきました。

コロナ禍の日々を過ごすなかで、人々の価値観はさらに多様化しましたし、景況が低迷するなかで消費動向も不確実性を帯びていますが、モノ、コト、サービスを現場で商う方々の少しでもお役に立てればと、鋭意務めさせていただいております。

また、物書きの実績を評価いただき、PHP 研究所が発行する雑誌、「歴史街道」をはじめいろんな媒体への寄稿や、神宮の歴史、文化に関する講演、伊勢志摩の旅の魅力をお伝えする講演など、多岐にわたる活動に走り回る日々を、楽しく過ごしています。 松山泰久



事務局だより

6月10日の活動交流会は大盛況！

久しぶりに開催しました活動交流会にはたくさんの方々にご参加いただきました。特に今回は、会員さんだけでなく、一般の方や大学生の方にもご参加いただいたことで活気を得たと思います。



当日は、社会実習として三重県立看護大学の学生 6 名に参加いただき、交流会のお手伝いをさせていただきました。家族以外の大人の方との交流は初めてとの感想！ 今の地域課題を知っていただくいい機会だったと思います。



第1部では、代表よりこれまでの活動をご報告し、その後の記念講話では、株式会社ぎゅーとら代表取締役社長清水秀隆様から食品スーパーとして、地域のコミュニティをいかに大切にしているか、ぎゅーとらの SDGs やスーパー運営で大切にしていること、お客様とのエピソードなどをお話いただきました。

